



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 商品が脱落するおそれがありますので、下記事項をお守りください。
 - ・ねじは指定のものを指定本数使用して固定してください。
 - ・吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押込んでください。押込み後、引張って抜けないことを確認してください。
- 2人以上で作業してください。
 - 1人作業では製品の転倒などによりケガや躯体、製品のキズ付きが発生するおそれがあります。

■取付け上のおお願い

- 本製品は本体が天井高さで納まります。搬入や吊込み時など天井面、壁面に傷を付けないよう注意してください。
- 本製品は天井ボードを上レールに突き当てて納める仕様となります。上レールが変形する程の強い力で突き当てないでください。作動不良の原因になります。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付けるときは、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 造作材・建具枠の下地材・かい木は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。
(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 梁又はまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いため直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けしてください。
- 上レール取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- 枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がソフトモーション部に混入し、作動不良の原因となります。
- 製品取付の際の建具養生時に表面シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直貼りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。
- 必ず上レールの取付け方向を確認してください。
- 上レールの長さはカットしないでください。
- 吊車(ソフトモーション付)には潤滑剤などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。
- ガイドピンは本体吊込み時に取付けますので、枠の取付け後大切に保管してください。
- ガイドピンは、取付け順序「**3**固定ガイドピンの取付け」通りに正確な位置に取付けてください。本体の開閉操作に支障が出る原因になります。
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。
- 上レールを躯体に取付けた後に、天井ボードの施工を行ってください。
- 本製品は上吊方式のため、梁又はまぐさは、必ず構造計算のうえ、十分な強度を持たせてください。上レールの垂れ下がりの原因になります。

■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・昼夜などで温度差の激しい場所
 - ・湿気の多い場所
 - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部材・部品一覧表

※枠はノックダウン、本体は完成品です。

片引き用本体	上レール	入隅用縦部材セット	固定ガイドピン用本体端部ピースセット
<p>(1枚梱包)</p>	<p>上レール</p>	<p>縦部材 戸当り</p>	<p>端部ピース 取付けねじ</p>

■枠セット一覧表

名 称		入数
枠	上レール	1
製品セット	片引き用	1

■入隅用縦部材セット一覧表

名 称	入数
縦部材	1
戸当り	1

■部品セット一覧表

【片引き用部品セット】

名 称	入数
吊車(ソフトモーション付)	1個
吊車	1個
ソフトモーション受け金具取付け治具	1個
ソフトモーション受け金具	2個
ソフトモーション受け金具取付け用 低頭タッピンねじφ4×30	4本
上レール取付け用トラスタッピンねじφ4×50	10本
ガイドピンセット(取付けねじ付)	1セット
上レール端部ストッパー	2個
上レール端部ピース	2個

【固定ガイドピン用本体端部ピースセット(別売り)】

名 称	入数
端部ピース	2個
取付け用なべタッピンねじφ3.5×30	2本

■引手セット(別売り)

名 称	入数
引手A	1個
引手B	1個
取替え説明書	1枚

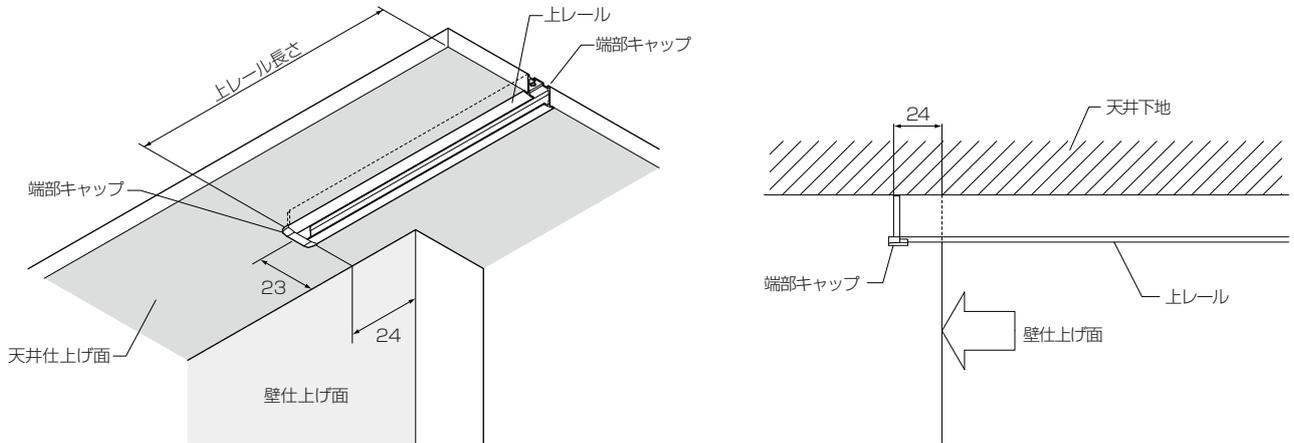
■施工のながれ

お願い

- 上レールを躯体に取付けた後に、天井ボードの施工を行ってください。
- 本製品は上吊方式のため、梁又はまぐさは、必ず構造計算のうえ、十分な強度をもたせてください。上レールの垂れ下がりの原因になります。

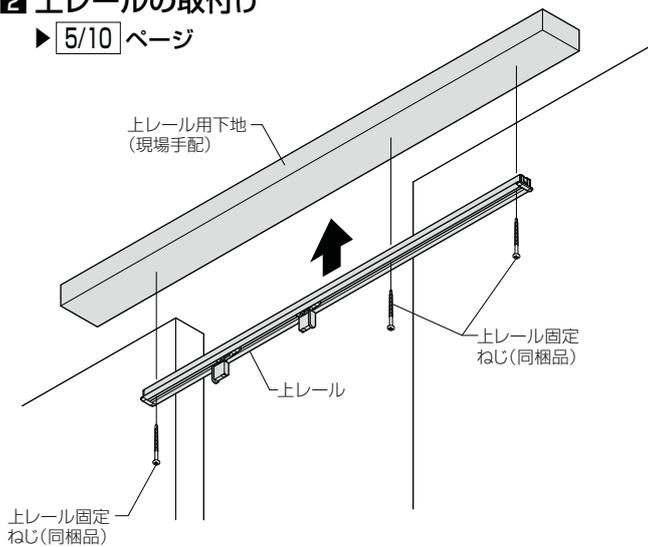
1 上レールの取付け位置の確認

▶ 4/10 ページ



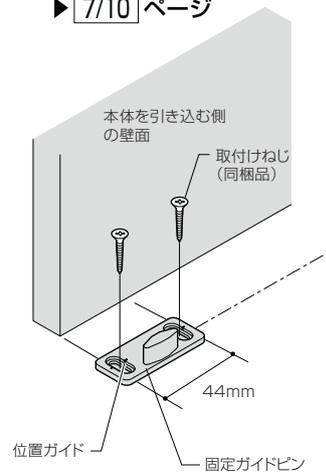
2 上レールの取付け

▶ 5/10 ページ



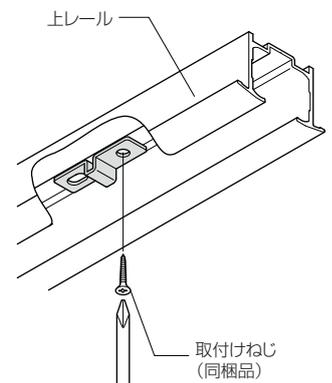
3 固定ガイドピンの取付け

▶ 7/10 ページ



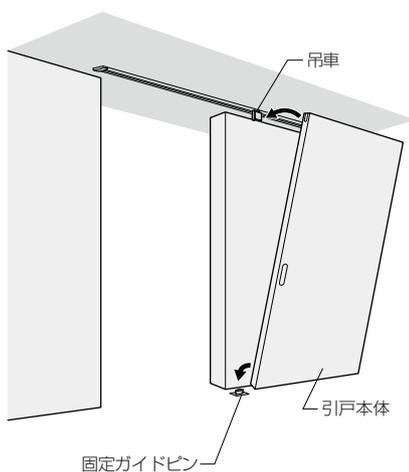
4 受け金具の固定

▶ 7/10 ページ



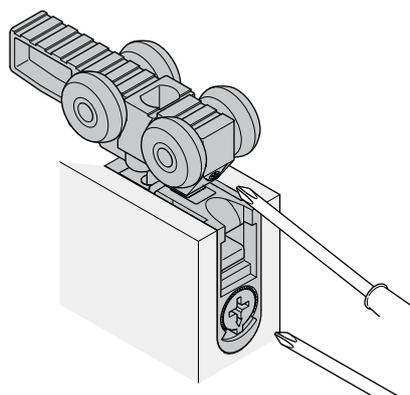
5 引戸本体の吊込み

▶ 8/10 ページ



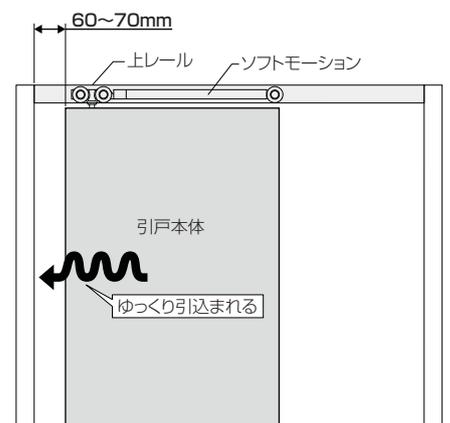
6 本体の調整

▶ 9/10 ページ



7 ソフトモーション機構の動作確認

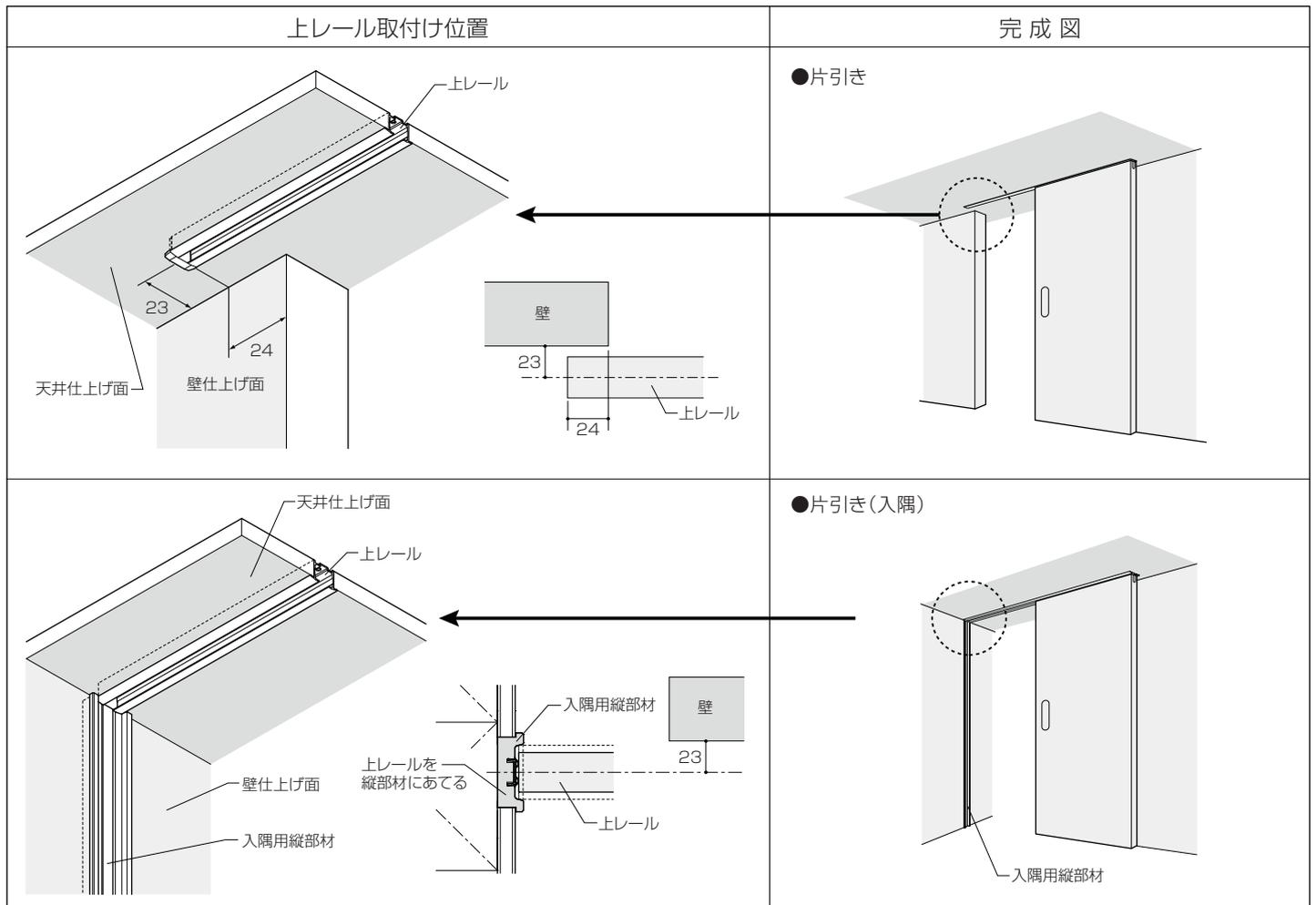
▶ 9/10 ページ



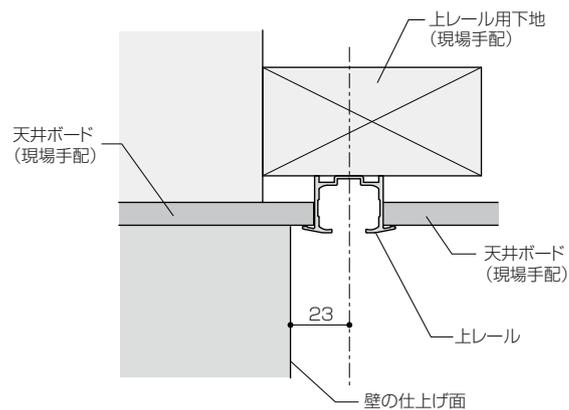
■取付け順序

1 上レールの取付け位置の確認

※上レールを取付ける前に必ず確認してください。

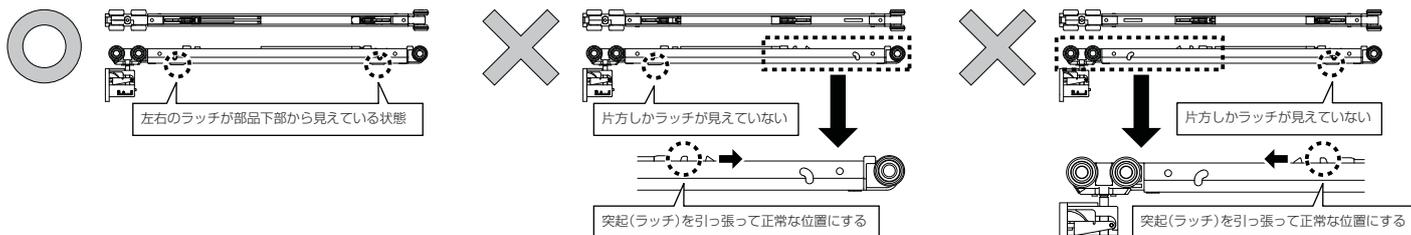


■上レール用下地 前後の取付け位置

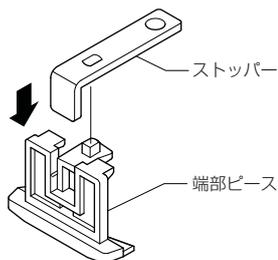


2 上レールの取付け

●吊車(ソフトモーション付)の上レール挿入前の確認

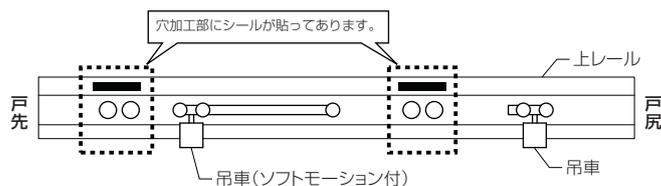


①端部ピースにストッパーを取付けます。

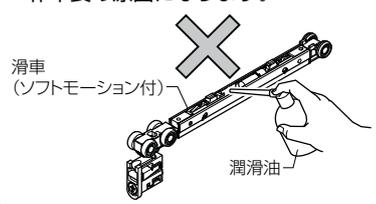


②上レールに吊車(ソフトモーション付)と吊車を挿入します。(下図参照)

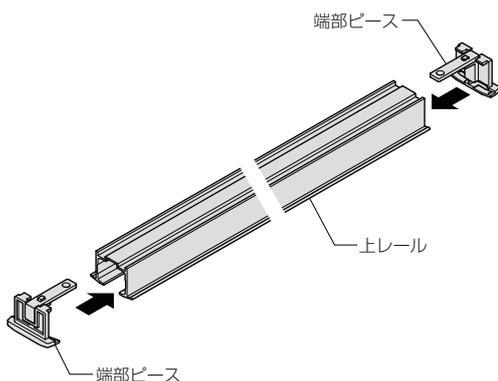
※挿入向きに注意してください。向きを間違えると正常に開閉操作ができません。



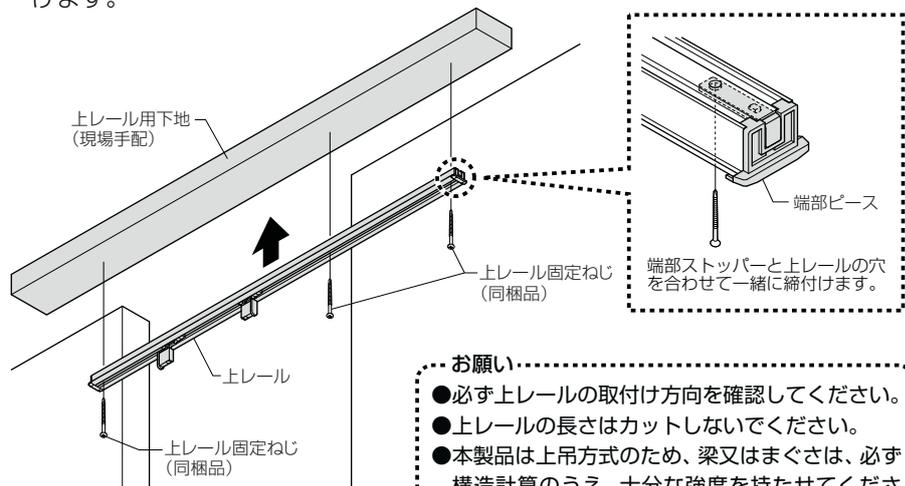
お願い
※吊車(ソフトモーション付)に潤滑油などを塗布しないでください。動作不良の原因になります。



③上レールの端部に①の端部ピースを挿入します。



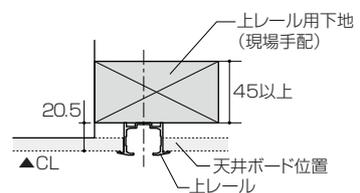
④上レール用下地に同梱のねじ(トラスタッピンねじφ4×50)で上レールを取付けます。



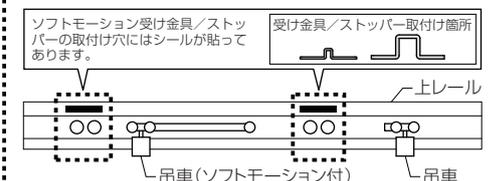
お願い
●必ず上レールの取付け方向を確認してください。
●上レールの長さはカットしないでください。
●本製品は上吊方式のため、梁又はまぐさは、必ず構造計算のうえ、十分な強度を持たせてください。上レールの垂れ下りの原因になります。

■上レール取付け位置

上レール用下地は天井仕上げ面より20.5mm高い位置に設置してください。



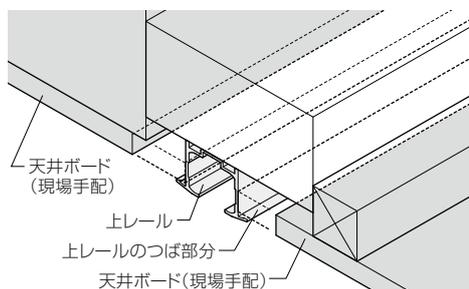
お願い
●ソフトモーション受け金具/ストッパーの取付け穴に鴨居取付けねじで固定しないでください。



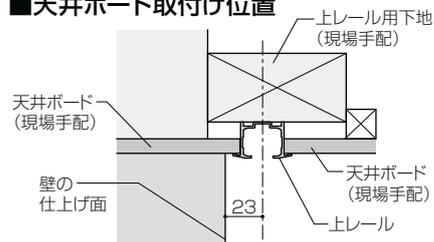
建築工事(材料は現場手配)

⑤上レールを取付けた後、天井ボードを上レールのつば部分にはめ込んでください。

お願い
●上レールが変形する程の強い力で突き当てないでください。動作不良の原因になります。



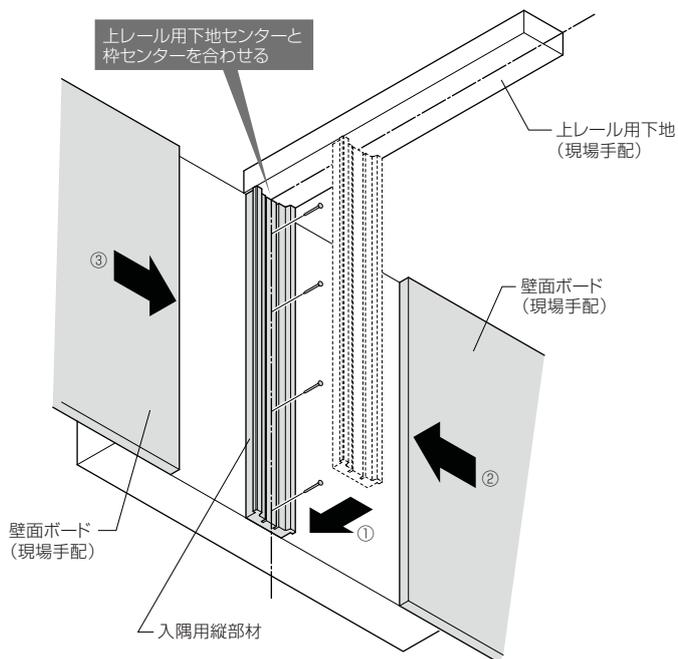
■天井ボード取付け位置



建築工事(材料は現場手配)

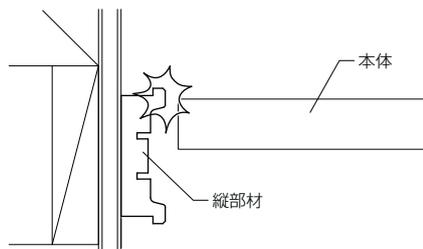
【入隅納まりの場合】

入隅用縦部材を上レールの前に取付けます。

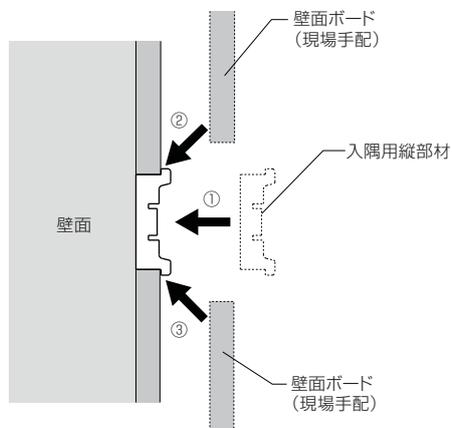


お願い

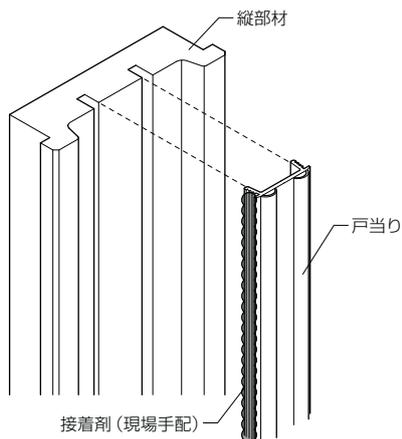
- 縦部材は、垂直を出して取付けを行ってください。本体が縦部材の突起に当たり、閉まり切らなくなります。



- ①入隅用縦部材を取付けます。
上レール用下地センターとセンターを合わせてください。
- ②③壁面ボードを取付けます。
壁面ボードは、入隅用縦部材に当てた状態で取付けてください。



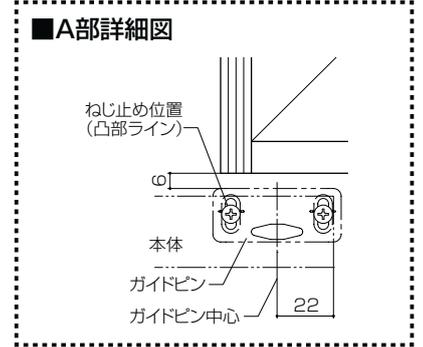
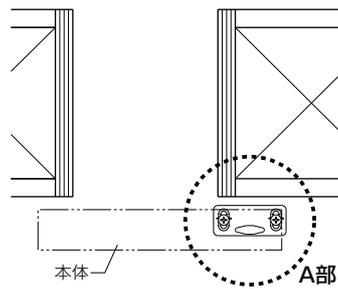
- ④縦部材の溝に戸当りを接着剤(現場手配)で取付けます。



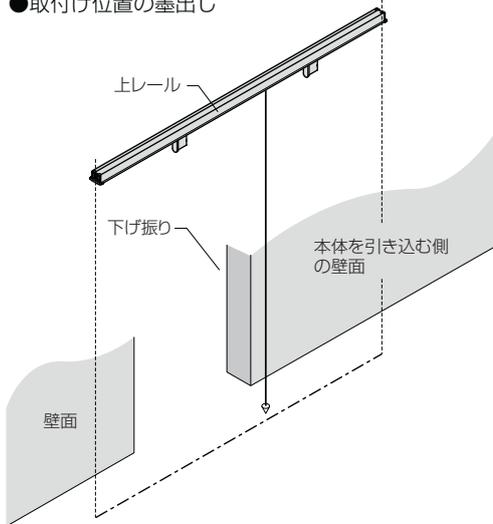
3 固定ガイドピンの取付け

※取付け位置は、「■参考納まり図」をご確認ください。

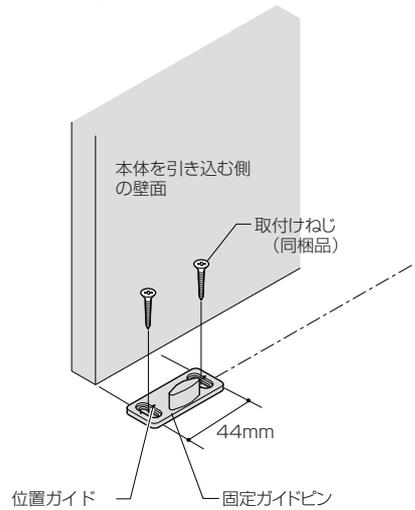
- ガイドピンを枠に同梱のねじ(皿タッピンねじφ3.5×20)で固定します。
- ※本体の開閉操作に影響が出ますので、必ずA部詳細図を参照してください。
- 図の位置および、向きにガイドピンを置き、ガイドピンの長穴(2箇所)の凸部(ライン)の位置にねじ止めしてください。



●取付け位置の墨出し

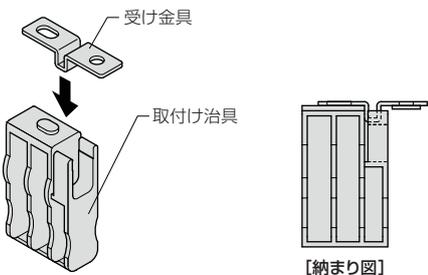


●片引きの場合

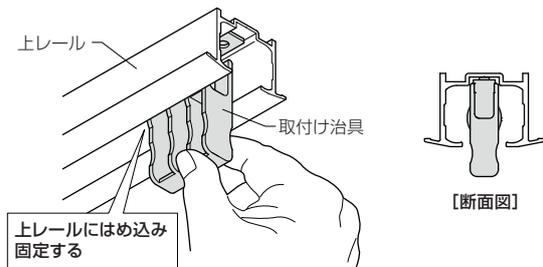


4 受け金具の固定

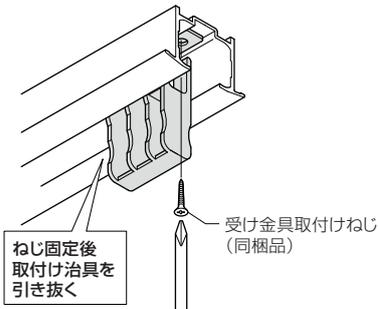
①受け金具の方向を確認して、取付け治具にセットしてください。



②上レールの下穴と受け金具の穴を合わせて、取付け治具を上レールにはめ込んでください。



③受け金具取付けねじ(同梱品)で固定し、取付け治具を引き抜いてください。

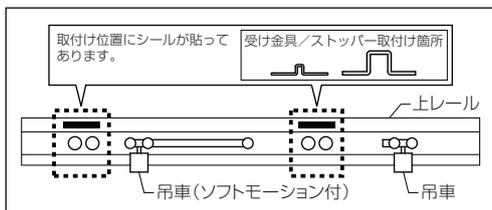


④もう片方の固定穴も取付けねじで固定してください。

●お願い

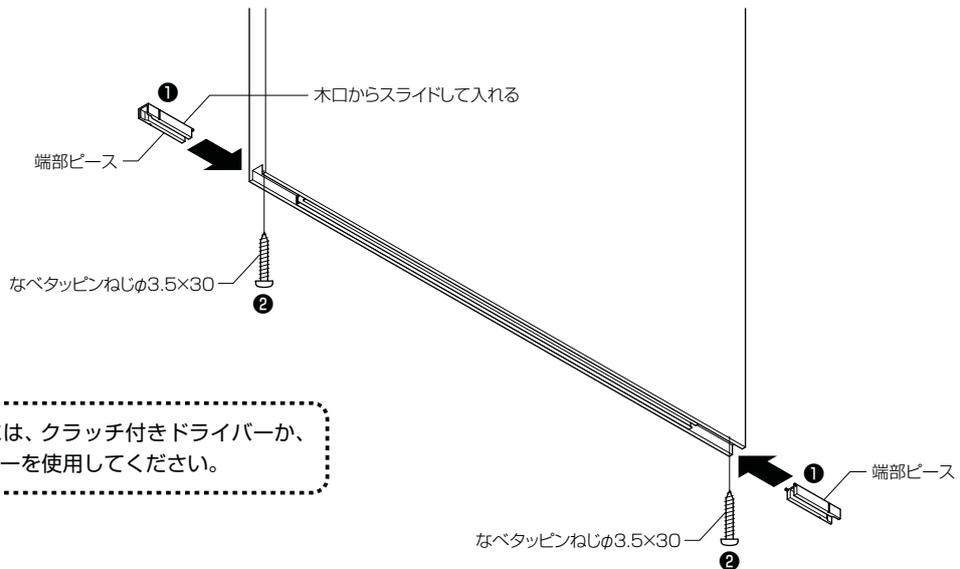
- クラッチ付ドライバーを使用してください。
- 完全に固定されるまで、上レールにしっかりと固定してください。ソフトモーションの作動不良の原因になります。

斜めに取付く
溝にのり上げる
浮き上がる



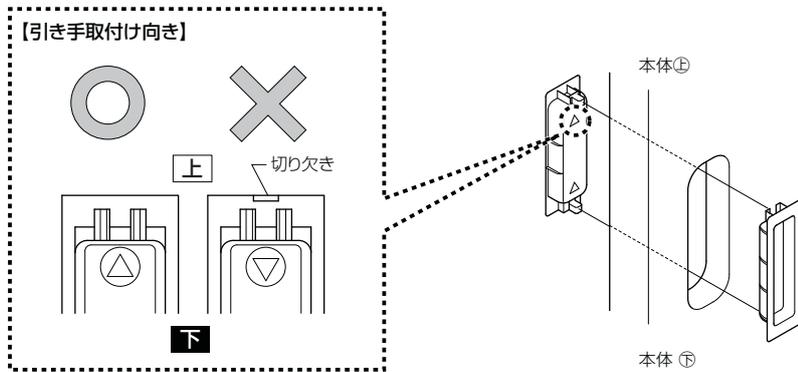
5 引戸本体の吊込み

■ 本体下部部品の取付け

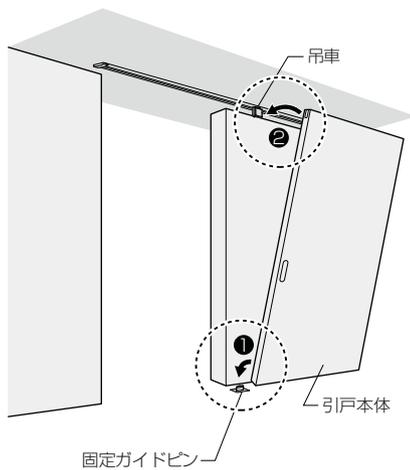


■ 引手の取付け

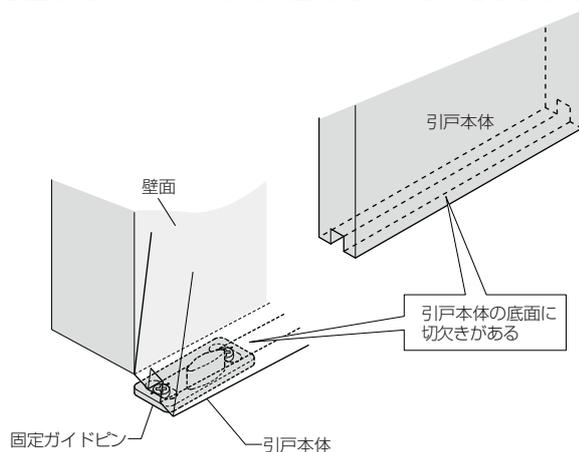
引手を下図の向きで取付けます。



■ 引戸本体の吊込み



① 本体を持ち上げて、本体下部の溝に固定ガイドピンをはめ込んでください。



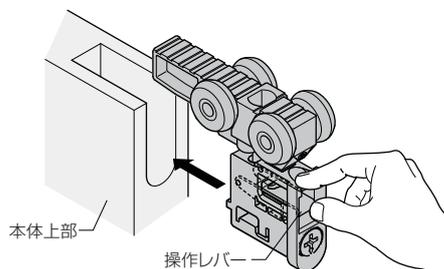
▲ 注意

- 2人以上で作業してください。
1人作業では製品の転倒などによりケガや躯体、製品のキズ付きが発生するおそれがあります。

お願い

- 吊込みの際、本体上部が天井面にぶつからないようにしてください。

② 片側ずつ吊車を本体に水平に押し込むと、ワンタッチで取付けられます。
※ 吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差し込みます。



▲ 注意

- 吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引張って抜けないことを確認してください。押し込みがたりないと、本体が脱落するおそれがあります。

6 本体の調整

●本体の吊車には、上下方向および前後方向の調整機能が付いています。

①上下調整(調整幅+4mm、-1mm)

●プラスドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mmが標準です。

※本体を下げ過ぎるとガイドピンベース部と本体が当たりますので、下げ過ぎないでください。

②前後調整(調整幅±2mm)

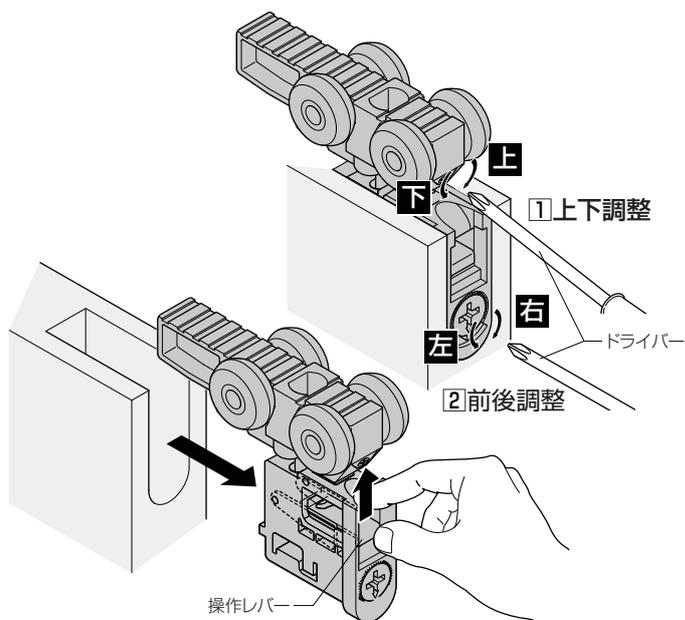
●前後調整は化粧縁と本体のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ5mm)に実施してください。プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。

※前後調整した場合は、本体が常に垂直になるようにガイドピンの調整をしてください。調整しないと開閉操作が重くなる場合があります。

■本体の取外し方法

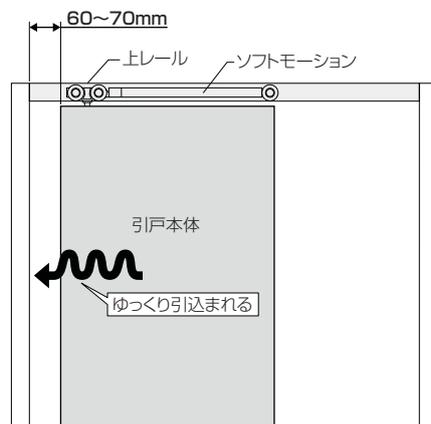
●本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押上げます。次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。

※取外しがやりにくい場合は、マイナスドライバーなどを使用して操作レバーを押上げながら引抜いてください。



7 ソフトモーション機構の動作確認

本体を停止位置より60~70mm動かして、ゆっくりと引き込まれるか確認してください。



■ソフトモーション機構の自動復帰方法

※本体を吊込んでソフトモーション機構が作動しない場合は以下の手順を行うことでソフトモーション機構が自動復帰します。

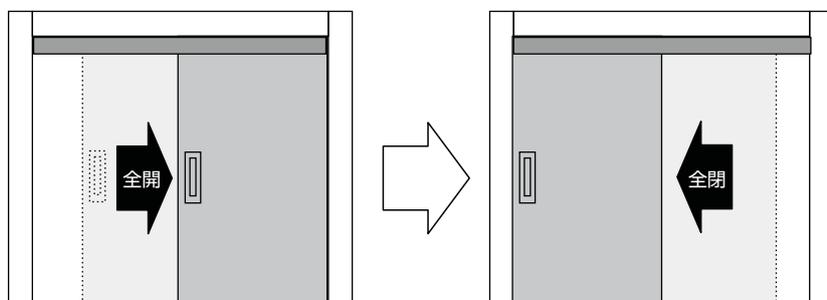
①本体を全開してください。

②本体を全閉してください。

③①、②を1~2回繰り返してください。ソフトモーション機構が復帰します。

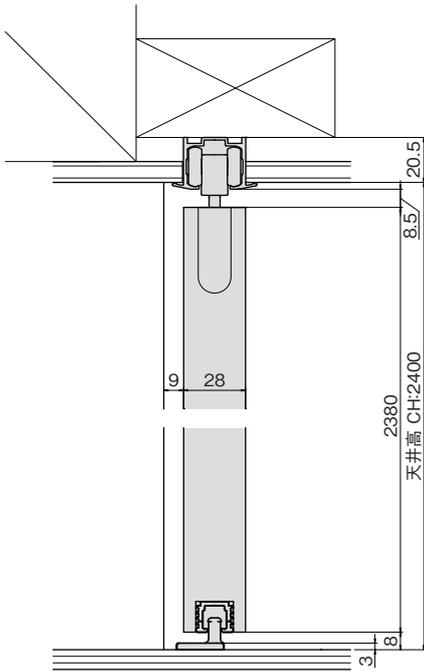
※必ず全開・全閉を行ってください。ソフトモーション機構復帰時に「カチッ」と手応えを感じます。

※ソフトモーション機構復帰後は本体を無理に押し込んだり、引っ張ったりしないでください。作動不良の原因となります。



■参考納まり図

■縦断面図



■横断面図

